

平成27年度

和歌山県立博物館の運営状況に対する評価書

和歌山県立博物館

和歌山県立博物館の使命

和歌山県立博物館は、和歌山県ゆかりの文化財の保存と活用をはかり、旧石器時代から近現代にわたる、きのくに-和歌山県の歴史と文化についての認識を深める機会を、広く提供するために設置された歴史系総合博物館です。当館は、和歌山県教育委員会所管の公立博物館として、和歌山県ゆかりの文化財を中核とした博物館資料を、積極的に収集・保管・調査・展示するとともに、活動の成果を様々な方法により普及するための事業を行います。

1 和歌山県ゆかりの文化財を、集め守ります。

資料収集基本方針に基づき、和歌山県ゆかりの文化財を中核とした博物館資料を収集します。資料の保存にあたっては、様々な劣化要因に対応した管理を行います。

2 和歌山県ゆかりの文化財を、調査・研究します。

県内地域に残されている多くの文化財を積極的に調査・研究し、その成果を様々な媒体により、全国に情報発信します。

3 和歌山県ゆかりの文化財を、展示・公開します。

和歌山県の歴史を概説する常設展と、おもに和歌山県ゆかりの文化財をテーマにした特別展・企画展との組合せによる展示活動を年間計画により行います。

4 和歌山県ゆかりの文化財を、広く伝えます。

和歌山県ゆかりの文化財の魅力をわかりやすく伝えるための行事を行います。また、様々な媒体により当館の活動を広報します。あわせて、学校教育との連携や生涯教育の機会の提供につとめます。

5 利用者にやさしい博物館をめざします。

すべての利用者が安全で快適に利用できるよう、施設・設備の維持管理を行うとともに、危機管理・安全・アメニティーに対する職員の意識向上をめざします。

平成27年度 和歌山県立博物館評価様式

1. 資料収集・管理

博物館長による所見	和歌山県に関わる資料の充実に努めていることは評価できる。購入予算の増加を要求するには、名品・優品をより積極的に探索することが望まれる。燻蒸については、ガス燻蒸の代替方法の開発は博物館共通の課題であるため、他館との情報交換が必要である。
評価部会による所見	博物館として必要な機能は、果たしているものと考えられる。予算の範囲内で、もう少し高価な資料が購入できるよう、日常的なりサーチが求められる。なお、資料購入費については、購入対象に応じて、弾力的な運用の余地があることが望まれる。

①資料収集

A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。(1)

平成27年度目標	資料収集方針に沿って、適正に資料を収集する。美術資料選定委員会を1回開催する。
自己評価	資料の購入については、2月16日に美術資料選定委員会を開催し、購入の妥当性及び価格について判断を仰いだ上、購入手続きを行った(計7,363,710円)。資料の受贈及び受託については、資料収集方針に基づき、その都度担当学芸員が過去の実績や現況を慎重に判断した上で、寄贈・寄託を受けた。
課題・改善案	購入については、購入予算を維持し、とくに高野山・熊野関係の資料の充実にめざす。防犯・防災上の理由による資料の受託に対する備えをしておく。

B. 購入・受贈・受託数は何件・何点か。(2)

平成27年度目標	新規購入・受贈・寄託件数・点数を把握する。収蔵庫別に、残り収蔵容量の把握を行う。
自己評価	27年度の購入資料は16件764点、寄贈資料は6件958点、新規寄託資料は52件964点であった。
課題・改善案	収蔵庫の収蔵残容量を把握し、収納器具・棚の増設についての方向性を整理する。

②資料保存

A. 資料の保存環境は適切か。(3)

平成27年度目標	資料の適切な保存環境を維持する。IPM手法の検討を行う。
自己評価	収蔵庫及び展示ケース内については、24時間空調で管理している。虫菌害を防ぐために、害虫トラップの設置・回収を1か月単位で行った。また、外来の資料は、収蔵庫に配架する前にガス燻蒸(エキヒューム)を行うとともに、展示室・一時保管庫・搬入口・書庫などの区画で、ガス燻蒸(ブンガン)を行った。このほか、収蔵庫・展示ケース内の空気環境調査等を行った。
課題・改善案	掃除機等による収蔵庫内の清掃を励行する。虫菌害に関して、ガス燻蒸以外の防除手法についても研究する。節電の観点から、春秋の季節に空調機の間欠運転が可能か、検討する。

B. 資料の点検調査を行ったか。(4)

平成27年度目標	寄託資料の点検・預かり証書更新作業を行う。
自己評価	28年3月末が寄託資料の預かり証書の更新の時期にあたるため、それに合わせて寄託資料の現品・台帳・データベースと架蔵場所の確認・照合作業を行った。
課題・改善案	棚卸・点検作業の内容と頻度について、妥当かどうかを検討する。

C. 資料の修復は適切か。(5)

平成27年度目標	館蔵品を中心に、適切な資料の修復を行う。館蔵品・寄託品のうち、優先的に修理すべき資料のリストを作成する。
自己評価	館蔵品のうち、修理が必要なもの5件について、専門の業者による修理を行った。修理を優先する資料のリストは制作できなかった。
課題・改善案	館蔵品については、近年購入した資料の中で、修理が必要なものについて、優先順位を付けて修理を行う。寄託品の中で、展示をすることの多い資料については、長期的な展示計画と関連付けて修理を検討する。

③資料管理

A. 収蔵点数は何件・何点か。(6)

平成27年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握し、年度末に集計する。
自己評価	館蔵品は1,040件22,933点。寄託品は2,590件14,351点。(平成28年3月31日現在)
課題・改善案	年度末において、館蔵品・寄託品の件数・点数の集計を行う。

B. 資料の管理(台帳、データベース)は適切か。(7)

平成27年度目標	資料の管理を適切に行う。館藏品・寄託品データベースの整序を行う。
自己評価	館藏品は、館藏品カードとエクセル形式のデータベース及びそれを出力した館藏品台帳で管理している。寄託資料は、ファイルメーカー形式のデータベース及びそれを出力した寄託品台帳、預かり証書の写しを綴じた台帳で管理している。これらの台帳・データベースは、学芸課で一元管理している。
課題・改善案	データベース上で未整理の項目があるので、それらの整序作業を行う。

④資料の活用

A. 他機関へ資料を貸出ししているか。(8)

平成27年度目標	適切な管理・輸送が可能な博物館施設へ資料を貸出する。貸出基準の策定を検討する。
自己評価	資料貸出件数9施設34件68点(主な貸出先:東京国立博物館・福岡市博物館・和歌山市立博物館・長崎歴史文化博物館)
課題・改善案	貸出にあたっての基準を明文化し、公表する必要がある。

B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。(9)

平成27年度目標	必要な図書資料を購入・受贈によって収集し、活用する。継続的な整理につとめる。
自己評価	27年度収集図書1,344点(うち購入67点)。すべて、図書台帳ファイルに入力済み。
課題・改善案	継続的に書庫内書架・学習室書架の整理につとめる。

C. 資料のデータを公開しているか。(10)

平成27年度目標	資料のデータを公開する。最新情報の更新に努める。
自己評価	ホームページで館藏品目録(一部画像付き)・学習室架蔵図書目録を公開している。
課題・改善案	館藏品・図書資料の収集にあわせて、最新の情報になるように更新する。画像データの公開も、将来的に可能になるよう準備作業を行う。

2. 調査・研究

博物館長による所見	展示に結びつく調査研究という課題は十分に果たされている。それだけでなく、災害時の博物館の役割、文化財防犯のためのレプリカの活用という面でも、当館の活動は全国的にもレベルが高い。
評価部会による所見	緊急的な調査に対応できるような体制を準備しておく。県内の博物館・文化財関連機関との連携や役割分担について、整理しておく必要がある。

①調査

A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。(11)

平成27年度目標	使命に基づいた調査研究を行う。調査実績の把握につとめる。
自己評価	年間調査件数109件(展覧会関連資料調査・購入予定資料調査・依頼による調査)。
課題・改善案	調査の概要を集積した実績記録を作成する必要がある。

B. 外部機関・団体と共同した研究を行っているか。(12)

平成27年度目標	共同調査を行う。文化財の防災・防犯・保全などに関する調査は、積極的に関与する。
自己評価	「災害の記憶」に関する資料の調査、和歌山市内個人宅所蔵資料の緊急調査・保管、和歌山県北部地域所在中世史料の調査・研究
課題・改善案	和歌山県ゆかりの文化財について、計画的な調査だけでなく、緊急性のある調査にも柔軟に対応できるようにする。

② 研究成果の活用

A. 展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。(13)

平成27年度目標	研究の成果を博物館の事業(展示・収集等)に反映させる。調査の成果であることをアピールする。調査概要の記録を集積する方法を確立する。
自己評価	特別展・企画展の展示に、研究成果を反映させた。
課題・改善案	展覧会が研究の成果によるものであることを、積極的にアピールする。

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。(14)

平成27年度目標	様々な機会を利用して、学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)を行う。
自己評価	『和歌山県立博物館研究紀要』第22号や、展覧会図録等の中で、調査成果を公開した。
課題・改善案	さまざまな機会により、研究成果の積極的な公開につとめる。

3. 展示

博物館長による所見	特別展・企画展は現水準を維持すべきであるが、常設展はより精度の高いレプリカなどによるリニューアルの時期に来ているように思う。県内資料の調査研究の成果を展示に反映させる今のやり方は堅持すべきである。アンケートにもとづいたテーマの展示企画も必要であろう。
評価部会による所見	現在の展示の回数・レベルは維持すべき。展覧会の成果を整理し、学術的にまとめることができるような余裕も確保することが必要である。和歌山県ゆかりの文化財を全国に知らしめる意味で、他府県の館との合同企画・共催展の可能性を検討することも必要ではないか。

①常設展

A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。(15)

平成27年度目標	2回、実物資料の劣化防止に努める。レプリカ・模型・パネル類の劣化・破損状況を整理する。
自己評価	秋の特別展終了後の常設展復旧作業の際と年度末に、展示資料の点検及び一部資料の展示替えを行った。
課題・改善案	実物資料については、劣化防止のため、定期的に展示替えを実施する。レプリカ・模型・パネル等の補修・更新を行うための計画を策定する。

B. 計画的な保守・管理が行われているか。(16)

平成27年度目標	計画的な保守・管理を行う。飛散防止フィルム未施工箇所に施工する。
自己評価	秋の特別展展示替え期間中に、全面的なガラス清掃を行った。3月に常設展示ケース4本のうちの2本の飛散防止フィルム設置を施工した。また、情報・映像装置類の保守点検を行った。
課題・改善案	従来通り、保守・管理をおこなうとともに、飛散防止フィルム未施工箇所に施工する。

② 特別展・企画展

A. 展覧会のコンセプトは妥当か。(17)

平成27年度目標	来館者の要望や地域バランスも参考にしながら、当館の使命によるコンセプトに基づいて展覧会を開催する。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、和歌山県ゆかりの文化財をテーマとし、文化財の保存についての認識を深めたり、鑑賞の仕方をわかりやすく伝えるということを主眼においた。
課題・改善案	調査研究の進捗状況や周年記念の行事などに合わせて、和歌山県ゆかりの文化財を基本テーマとして、展覧会を開催する。

B. 展示の構成・展示手法はどうか。(18)

平成27年度目標	来館者の要望などをふまえ、適切な展示の構成・展示手法をとる。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、展示構成を明らかにするために、いくつかのコーナーに分けて、展示を構成した。動線は、展示資料に合わせて右から左へと進むものとした。
課題・改善案	来館者などからの反応・意見なども参考にし、よりよい展示手法の検討を行う。

C. 図録・パンフレット等を制作したか。(19)

平成27年度目標	春と秋の特別展について、それぞれ図録を制作する。
自己評価	2本の特別展および企画展「鯨とり」については、それぞれ展示資料をすべて収録した展覧会図録を刊行した。
課題・改善案	特別展については、従前通り図録を制作する。必要に応じて、予算の範囲内で、その他の刊行物も発行する。一部の企画展でも、図録や小冊子を発行できるような方策を検討する。

D. 展示資料・来館者の安全は確保したか。(20)

平成27年度目標	展示資料・来館者の安全を確保する。地震対応について、さらに検討し、計画的に実施する。
自己評価	全ての展示資料は、展示ケース内に収納して、展示環境の保全と防犯に留意した。展示ケース内では、平均20～22℃・60%、150ルクスの環境を保持した。展示室内では、来館者の足元の明るさを確保するために、ダウンライトやスポットライトを活用した。行灯形ケースでは、免震台を使用した。展示室内での来館者の負傷等は、発生しなかった。
課題・改善案	展示資料の保全と鑑賞のしやすさの両立をはかる。地震に対する、資料・来館者の安全の確保について、より十分な対策を講じる。来館者の協力を得て、避難訓練を実施する。

E. 開催後の反響はあったか。(21)

平成27年度目標	開催後も反響が続くような展示を行う。
自己評価	特別展「弘法大師と高野参詣」については、資料を調査・借用した県内地域の一部では、文化財に対する関心が継続しているような傾向が見られた。防災・防犯をテーマにした企画展については、新聞などでも継続的に取り上げられており、その後も関心が続いている。
課題・改善案	展示後も、地域に残された文化財への関心・保全への取り組みが継続するよう協力する。

③ 館内小展示・出前展示

A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。(22)

平成27年度目標	館内小展示を2回実施する。利用者のニーズの調査を行う。
自己評価	特集展示「高野山と有田川流域の仏教文化」(4月25日～6月7日)・コーナー展「きのくにの古式捕鯨」(7月18日～9月6日)・写真パネル展「太地―捕鯨史跡・鯨舟―」(9月19日～4月17日)・コーナー展「先人たちが残してくれた『災害の記憶』」(1月23日～3月6日)・スポット展示「さるにまつわる紀州の絵画」(1月23日～3月6日)の5本を展示室の一部・文化財情報コーナー・エントランスホール等で開催した。
課題・改善案	エントランスホール・ギャラリーを小展示の空間として活用するため、出前展示と合わせて、県民・学校のニーズを調査する。

④入館者の傾向

A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段等)を把握しているか。(23)

平成27年度目標	入館者の動向を把握する。回答率の増加(10～15%)をめざす。
自己評価	アンケート調査を通年実施し、特別展・企画展ごとに集計し、入館者の動向の変化を把握した。回答率7.9%。
課題・改善案	昨年度に比べると、回答率はわずかに増加したが、引き続き低い状況が続いている。基礎データとして使用できるよう、全体として10～15%の回答率になることをめざす。また、受付で記入を促すなどの工夫が必要である。

B. 入館者が展示に満足しているか。(24)

平成27年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査)。「感想・意見」欄の要望に、可能な限り対応する。
自己評価	アンケート調査によると、満足度は、「大変良かった」「良かった」を合わせて、88.7%(前年度88.7%)であった。
課題・改善案	「感想・意見」欄に記された事項のうち、是正すべきものは対応する。

4. 教育普及

博物館長による所見	地域・学校との連携活動は積極的に行っている。教育普及専従の職員(ミュージアム・エドゥケーター)が配置されていれば、調査研究や収集展示といった本来業務に学芸員が専念できる。一般のボランティア導入については、十分な注意を払ったうえで、計画・実施してもよいのではないかと。
評価部会による所見	社会教育施設として、他の同様の施設との連携・協力を、よりはかるべきである。学校への働きかけや協働活動を充実させるためには、教育委員会定数枠内での併任などの方法により、教育普及専従の学芸員(ミュージアム・エドゥケーター)を配置することが望ましい。

①学校・団体の利用

A. 学校・団体の利用回数。(25)

平成27年度目標	50校
自己評価	利用回数は51校(前年度46校)。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。特に歴史や文化財に関心を持っている高校生に対してアプローチをはかり、博物館への要望もさぐる。

B. 利用者数。(26)

平成27年度目標	1,800人
自己評価	利用者数は2,071人(前年度1,749人)。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。

C. 利用者が満足しているか。(27)

平成27年度目標	学校単位での利用時における、利用者の満足度を測定する手法を研究し、実施する。
自己評価	学校団体の利用後において、満足度調査を測定することができなかった。
課題・改善案	学校団体の利用時における、満足度や要望調査の手法を研究する。

② 講演会・博物館講座

A. 講演会・博物館講座の回数。(28)

平成27年度目標	6回
自己評価	特別展「高野山開創と丹生都比売神社」関連：1回、特別展「弘法大師と高野参詣」関連：2回、企画展「紀州を旅する」高校生研究発表：1回、合計：4回
課題・改善案	特別展・夏休み企画展の際に行う講演会・講座を継続して行う。

B. 講演会・博物館講座の参加者数。(29)

平成27年度目標	240人。とくに、「夏休み講座」の受講者数増加をめざす。
自己評価	特別展「高野山開創と丹生都比売神社」関連：85人、特別展「弘法大師と高野参詣」関連：200人、企画展「紀州を旅する」高校生研究発表：20人、合計：305人
課題・改善案	小学校高学年とその保護者向けに、「夏休み講座」参加者の増加をめざす。

C. 参加者が満足しているか。(30)

平成27年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	特別展「高野山開創と丹生都比売神社」と特別展「弘法大師と高野参詣」(1回分)については、アンケート調査を行った。満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、前者が91.0%、後者が92.7%であった。
課題・改善案	継続して調査を行う。満足度と回答率が上がるようにつとめる。

③展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数。(31)

平成27年度目標	展示解説37回・体験学習2回・見学会1回・現地学習会2回
自己評価	特別展・企画展合わせて展示解説43回、体験学習1回、現地見学会4回、現地学習会2回
課題・改善案	同程度の回数を維持する。

B. 行事の参加者数。(32)

平成27年度目標	展示解説600人・体験学習50人・見学会20人・現地学習会180人。行事の告知を充実させる。
自己評価	展示解説710人、体験学習30人、現地見学会90人、現地学習会137人
課題・改善案	展示解説の人数が少ない日があったので、実施日時の広報を充実させる。

C. 参加者が満足しているか。(33)

平成27年度目標	利用者の満足度を測定する。
自己評価	「わかやま城探検ツアー」及び現地学習会については(各2回)、アンケート調査を行った。満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、前者平均が93.9%、後者平均が86.2%であった。
課題・改善案	継続して調査を行う。回答率が上がるようにつとめる。展示解説の際の満足度調査については、調査の手法について検討する。

④県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。(34)

平成27年度目標	現行のボランティア制度をより充実させる。博物館友の会との連携を検討する。
自己評価	県教委と和歌山大学教育学部の連携協定に基づく、学生ミュージアムボランティア制度により、今年度は4人が参加し(延べ35回)、資料調査補助や音声ガイドナレーションを行った。博物館友の会を母体とする一般のボランティアについて、検討作業を行った。
課題・改善案	大学と当館との連絡を密にして、継続して実施していく。なお、博物館友の会を母体とする、一般向けのボランティア制度について、内容を整理・検討した上で募集を行う。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。(35)

平成27年度目標	友の会などの支援組織との協力関係を維持する。
自己評価	和歌山県立博物館友の会という任意団体を組織し、当館総務課内に事務局を置いている(会員数151人)。
課題・改善案	友の会の事業を積極的に支援するとともに、友の会からの人的補助(ボランティア)・経済的支援(図録等の出版補助)などの協力が得られるように要請する。

C. 地域・学校等と連携した事業をおこなっているか。(36)

平成27年度目標	文化財の防災・防犯などを主眼において、地域・学校と連携した事業を行う。
自己評価	県内文化財の保全や被災時の救援活動を円滑に行うことを目的とした、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議を運営した(加入機関数78)。
課題・改善案	文化財の保全・防犯・防災などの点を主眼において、連携した活動を行う。

D. 観光資源として活用できる方策をとっているか。(37)

平成27年度目標	観光資源として活用できる方策をとる。和歌山城との連携の手法について研究する。
自己評価	特別展のちらし・ポスター・年間展示計画を県内ホテル・旅行案内所・観光業者へ送付(177件)。外国語版音声ガイドのちらしを県内ホテル・中国人旅行を扱う業者を中心に送付(239件)。
課題・改善案	多くの観光客が訪れる和歌山城との連携について、具体的な検討作業を行う。

⑤人材育成

A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。(38)

平成27年度目標	学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価	学芸員実習受入人数5人、インターンシップ8校14人、教員研修(10年経験者研修2回18人、10年経験者研修社会体験研修2人)
課題・改善案	従来通り、積極的に受け入れる。

5. 広報・情報発信

博物館長による所見	和歌山城との連携・協力は実現に向けて検討作業を行う必要がある。広報活動にあたっては、ポスターやチラシをより効果的に使うべきである。
評価部会による所見	さまざまな手法による広報・情報発信に挑戦しているが、十分な効果があったかどうかは不明である。ある程度同じ手法を継続させて、県立博物館の存在を知らせることにつとめる。年齢層ごとに効果のある広報を行う必要がある。観光業者の協力を得るなどして、和歌山城との連携を具体化することが求められる。現在の世情を考えると、マスコットやイメージキャラクターのようなものも必要なのではないか。また、地元テレビ・ラジオ局との日常的な連携強化もはかるべきである。

①県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。件数。(39)

平成27年度目標	問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応する。重要なものについては、記録を作成する。
自己評価	地域の文化財情報を有する中核的施設として、812件の問い合わせ・質問などに対応した。
課題・改善案	対応の件数・内容を把握し、重要なものについては、記録を作り、情報の共有化をはかる。

②メディアへの情報発信

A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。(40)

平成27年度目標	メディアへの広報・情報活動を、より積極的に行う。
自己評価	報道機関への資料提供回数:15回・新聞(一般紙)への掲載件数:62回・コラム記事(『和歌山新報』):50回・テレビ・ラジオ番組への出演:18回
課題・改善案	メディアに対して、より積極的な情報提供につとめる。

③ホームページによる広報

A. アクセス件数・更新回数。(41)

平成27年度目標	年鑑閲覧回数:40,000カウント・更新回数:8回
自己評価	年間閲覧回数:43,551カウント・トップページ更新回数:9回、主要なミュージアム検索サイトに、当館の基本情報を掲載するとともに、展覧会情報をその都度更新した。
課題・改善案	タイミングをはかりながら、適切に内容の更新を行う。

B. コンテンツ・デザイン等を工夫しているか。(42)

平成27年度目標	コンテンツ・デザイン等を工夫する。
自己評価	随時更新できる「博物館ニュース」(ブログ・ツイッター形式)により、当館の最新情報を双方向で提供している。
課題・改善案	トップページのデザインをはじめ、より見やすく、分かりやすい構造になるように検討する。多言語化に向けての検討も行う。リンク切れがないように、日常的に注意する。

④印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。(43)

平成27年度目標	ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動を行う。送付先・送付枚数等の検討を行う。
自己評価	特別展については、ポスター・チラシ(カラー)を制作し、各方面へ送付した。「弘法大師と高野参詣」(2,673件)、「わたしたちのたからもの」(2,593件)。企画展については、チラシ(単色刷)を制作し、館内で配布した。企画展「鯨とり」については、チラシ(カラー)を制作して、送付した(1,355件)。また、館だより・年間カレンダー(2種)・展覧会のご案内・教員向けパンフレットは、春の特別展の広報物発送と同じ便で発送した(28年度分)。
課題・改善案	より効果的な送付先・送付枚数の検討を行う。

⑤協力活動

A. 他の団体・機関の活動に協力したか。(44)

平成27年度目標	他の団体・機関の活動に協力する。県立博物館施設4館の連携事業に、引き続き参加する。
自己評価	県立博物館施設4館の合同企画(節電キャンペーン・風土記まつり)に参加した。収蔵写真資料の外部への使用許可・貸出:102件315点、講演の依頼:22件、委員等の委嘱:12件、執筆依頼:3件、学習室の貸出:20件、収蔵資料の特別閲覧:21件
課題・改善案	県立博物館施設4館の連携事業には、引き続き参加する。当館の専門性を活かした依頼については、館の業務に差し支えない範囲で協力する。

6. 組織と運営

博物館長による所見	学芸課と総務課の連絡は密で、評価できる。とくに、閉館後などの時間を利用して、レプリカ作成に受付職員が従事していることは、館活動の実情を組織全体で理解する上で有効である。
評価部会による所見	年間利用者の目標値を設定するための根拠を、整理しておく必要がある。開館時間内に来館者の避難誘導訓練を行うなど、具体的な危機管理体制の整備を行うべきである。

①組織・人員

A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。(45)

平成27年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成し、実地訓練等を行う。
自己評価	防災マニュアルは整備されている。防災放送設備の改修に伴い、防災放送の実地訓練を行った。
課題・改善案	火災・地震等を想定した避難誘導訓練は、毎年実施する必要がある。

B. 個人情報の保護・データ管理が適切に行われているか。(46)

平成27年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。電子データの管理について、複数存在する館内ネットワークごとの取扱い基準を整理する。
自己評価	県の定めた基準に基づいて実施している。
課題・改善案	館内の複数のネットワーク・端末上の電子データについて、管理・取扱上の指針を定める。

C. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。(47)

平成27年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加する。学芸員にとって必要な研修については、長期的な受講計画をたてる。
自己評価	県教委の全職員を対象とした人権研修に職員が参加した。また、新規採用職員(学芸員)が県の所定の研修に参加した。
課題・改善案	文化財の取扱い・保存科学についての研修(文化庁・東京文化財研究所主催)を、全ての学芸員が受講できるような長期的な計画をたてる。

②県民の期待に応える運営

A. 利用者数:当該年度の利用者数は何人か。(48)

平成27年度目標	39,000人。年間利用者数の目標値をたてるための、設定根拠を整理・検討する。
自己評価	入館利用者数は33,428人(前年度34,171人)。
課題・改善案	企画展・常設展の入館者数が相対的に減少したことの原因を検証する。

B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査を行っているか。(49)

平成27年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地見学会・現地学習会で、アンケート調査を行った。
課題・改善案	直接利用者の声を聞くような手法を検討してみる必要がある。利用者の意見に対して、いかに対応したのかを、掲示等で公開して、こうした調査の有効性を明らかにする。

C. 調査結果を反映した運営を行ったか。(50)

平成27年度目標	アンケートなどの調査結果を反映した運営を行う。寄せられた意見の集約・整理を行う。
自己評価	アンケート調査や受付に寄せられた意見、博物館協議会での意見などをもとに、改善を行った。
課題・改善案	様々なチャンネルで寄せられる意見の集約・整理が必要である。

③情報公開

A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。(51)

平成27年度目標	使命、目標、計画などの方針を公開する(ホームページ等で公開する)。
自己評価	「博物館の使命」をホームページで公開している。
課題・改善案	当該年度評価様式(目標)を、早い段階で当館ホームページに掲載する。

B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。(52)

平成27年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果を公開する(ホームページ・年報等で公開する)。
自己評価	3月にホームページ上で、26年度評価を公開した。『研究紀要』22号に収録された年報により、前年度(26年度)の実績を公開した。
課題・改善案	評価部会の検討をふまえ、年度のできるだけ早い段階で公開することが必要である。

7. 施設・設備

博物館長による所見	災害時の避難訓練を観覧者も参加した形で行う必要がある。窓やケースのガラス飛散防止の徹底、展示台のさらなる免震化などが求められる。また、館内でカビが発生した際の対策を考えておく必要がある。
評価部会による所見	収蔵庫・展示室内における文化財・来館者の安全を図るべく、日常的な点検を行うべきである。表示・解説の多言語化は、さらに充実すべきである。

①施設設備の維持管理

A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。(53)

平成27年度目標	日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われている。
自己評価	館内の重要な設備(空調・電気・警備など)については、日常的に点検が行われている。また、来館者の利用する部分については、日常的に清掃がほどこされている。
課題・改善案	引き続き、従来の設備点検・保守管理・清掃を行う。

B. 施設・設備の改修・整備が行われたか。(54)

平成27年度目標	施設・設備の改修・整備を状況に応じて行う。
自己評価	非常口扉の交換、電気室受電用装置の修理、燻蒸設備(濃度計)の交換、印刷機の修理を行った。
課題・改善案	状況に応じて改修・整備を行うための予算(修繕料)を確保する。

C. 長期修繕計画を有しているか。(55)

平成27年度目標	長期修繕計画が実施に移せるよう、長期的戦略で予算の獲得をめざす。大規模な地震に対する安全性について再確認し、必要な措置を講ずる。
自己評価	空調機・配電盤・建物防水等にかかる、長期修繕計画が策定されている。
課題・改善案	計画に基づいて修繕を実施するための予算要求を、継続的に行う。

②アメニティーの向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。(56)

平成27年度目標	「さわれるレプリカ」作りを継続する。館内外国語サインの充実を図るとともに、音声ガイド多言語化をめざす。
自己評価	平成22年度から、文化庁補助金により実施してきた「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作事業を、本年度も継続し、「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作を行った。また外国人利用者に対しては、文化庁補助金により音声ガイドの改訂(英語版)と制作(中国語版・韓国語版)を行った。また、観光交流課の事業として、館内の表示と一部キャプションについて、日本語に加えて英語表記を併記した。
課題・改善案	「さわれるレプリカ」作りを継続し、館内外での活用形態のバリエーションを増やして、利用促進をはかる。韓国語の表記・パンフレットを追加する。

B. 利用者に対する接遇は適切か。接遇の向上がみられたか。(57)

平成27年度目標	利用者に対する接遇向上のための研修を行う。
自己評価	県教委作成の「接遇マナー」にもとづいて、利用者に接遇した。
課題・改善案	アンケート調査等では、とくに改善を求める意見はなかったが、さらなる接遇の向上を図るための研修が必要である。

8. 財源

博物館長による所見	展覧会予算は現状を下まわらないようにすべきであるが、同時に入館者数の増加に対する努力が必要。耐震・免震のための予算を検討すべきである。文化庁補助金など外部資金の獲得は、積極的に行なわれている。
評価部会による所見	展示をはじめ、博物館の機能に関わる予算は、少なくとも現状を維持すべきである。さらに、大規模な設備改修のための財源は、確保されなければならない。外部資金の確保については、引き続き努力されたい。

①予算の確保

A. 入館料収入・当初計画に対する実際の収入達成率。(58)

平成27年度目標	歳入9,607千円(当初見込)。当初見込額に達するようにつとめる。
自己評価	歳入6,941千円(決算額)、達成率72.2%(26年度94.3%)
課題・改善案	当初見込額に達するようつとめる。

B. その他の収入の確保について。(59)

平成27年度目標	県一般財源64,882千円(当初見込)。必要な財源の確保につとめる。
自己評価	県一般財源62,648千円(決算額)
課題・改善案	博物館の使命を果たすために必要な財源の確保につとめる。

C. 外部助成金等を獲得しているか。(60)

平成27年度目標	外部助成金等を獲得する。(文化庁補助金など)
自己評価	文化庁平成26年度地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業:交付額6,883,126円
課題・改善案	引き続き、文化庁からの助成金を中心に、交付金・外部助成金等の獲得につとめる。